古事記を読む会　2014年12月7日 NO,7

１１月９日（日）午前１０時から第７回目古事記を読む会が開かれた。呉羽山も境内も紅葉がきれいだった。参加者は７名。以下前回の要点：

崇神（10 代）の御世に疫病が流行り、憂えた崇神は夢の中でオオモノヌシから裔の　オオタタネコを祀れと告げられる。そして、美しいイクタマヨリヒメが通ってくる男との間に子を孕み、その男の正体が三輪のオオモノヌシとわかる。産まれた子の裔がオオタタネコ。この話は神武の妃であるイスケヨリヒメの出生譚と酷似している。天孫と国つ神との融合化？さらに、各地に四道将軍を派遣するが、そのうちの一人オオビコ将軍は異母兄のハニヤスヒコの謀反を防ぐ垂仁（11 代）の妃サホヒメは兄のサホヒコに謀反を唆され、心ならずもそれに加担する。また、天皇は兄妹を攻め囲む中で何とか妃のサホヒメを救い出そうとするが失敗する。サホヒメとの間に出来たホムチワケは言葉を発っせない皇子であったが、出雲神を祀ることで回復した。最後に、トキジクカクノミを巡ってタジマモリの悲しい話もあった。

■今回の概略

・景行（12 代）紀は倭建命（ヲウス）の話がメイン。

・父の命を聞かない兄を殴り殺す猛々しいヲウス、敵の熊襲や出雲建を陰謀で倒す知略（？）を持つヲウス、帰国後、再度遠征（東征）を父から命じられヲウスは叔母のヤマトヒメのもとへ行き、父天皇の自分に対する余りにも冷たい仕打ちを悲しむ心中を吐露すると云う。女々しいヲウスなど様々なヲウス像が語れている

・日本書紀とは記述が大きく違う。（兄を殺してはいない。父の天皇は優しいしヲウスも使命感を持って勇敢に遠征に向かう）

・東征中、二度女性に助けられる。一度は叔母のヤマトヒメから貰った剣と袋で焼津での難を逃れ、更にオトタチバナヒメの身投げで海神の怒りを納めている。

・ヤマトヒメはヲウスの西征中にも御衣と御裳を与え、それらを使って熊襲を殺している。

・東国を平定後、都へ帰る途中伊吹山でその山の神の怒りを得、病に陥った後、白鳥となって空へ飛び立った。

・仲哀（14 代）の妃である神功皇后に依り憑いた神のお告げを仲哀が無視したので命を落すこととなる。

・そのお告げを実行した皇后は新羅征伐に出掛けた。

以上近藤さんメモより